

14. 後期研修プログラム

(呼吸器内科)

【3年コース】

1. 診療科（専門領域）

呼吸器内科

2. コースの概要

初期臨床研修プログラムを終了した者
呼吸器内科専門プログラムのすべて

3. 取得資格

学会認定の呼吸器専門医の取得も可能

4. 長期目標

呼吸器病学の専門的知識を習得
呼吸器疾患の診断を的確に行い、治療法を選択し遂行する。

5. 取得手技

気管支鏡（気管支鏡下肺生検、気管支肺胞洗浄など）
人工呼吸管理

6. 研修期間

3年

7. 募集人数

2名

8. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 9名

診療科研修の指導にあたる医師 5名

| | | | |
|-------------------|------|---------|-----|
| 主として研修指導にあたる医師の氏名 | 野上裕子 | 診療科経験年数 | 30年 |
| | 古森雅志 | 診療科経験年数 | 15年 |
| | 吉田誠 | 診療科経験年数 | 20年 |

9. コンセプト

当院内科は、呼吸器、アレルギー、心療内科、リウマチ膠原病の専門病院である。したがって、これら呼吸器と関連する領域の疾患に対する基本研修科目を履修し、臨床医としての基本的な姿勢と診療能力を会得することができる。特に、肺炎、気管支喘息、慢性呼吸不全は、それぞれ年間約 250 名の入院があり、これらの疾患に関しては、多くの症例を診ることで豊富な臨床経験を積むことができる。

10. 一般目標

肺炎の起炎菌を同定し、X線所見、臨床所見より正しく診断し、適切な抗菌薬を選択し治療できる。

気管支喘息の病態生理を理解し、治療、管理ができる。

各種アレルギー疾患の病態把握と治療ができる。

COPD、慢性呼吸不全、及び在宅酸素療法の適応を理解し、実際に導入することができる。

胸部レントゲン写真と胸部CTの読影ができ、鑑別診断をあげることができる。

血液ガス分析、肺機能検査を実施、理解ができる。

ベッドサイドで必要な胸腔穿刺、胸腔ドレナージなどの手技を学ぶ。

気管支鏡の目的と適応を理解し、手技を習得する。

11. 関連領域の研修に関して

施設内での研修 可能

施設外での研修 可能

研修領域の決定

本人と意向を研修責任者が聴取し、本人との相談で決定

12. 共通領域研修について

週一回、臨床レクチャーの開催

3ヶ月、4ヶ月に1回、地域開業医を交えたレントゲンカンファレンスを開催

各種研究会への参加

患者会との交流

禁煙外来のサポート

診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査表

| 主要疾患 | 入院数（年間） | 目標症例数（3年間） |
|-----------|---------|------------|
| 気管支喘息 | 200 | 50 |
| 肺炎 | 300 | 50 |
| 慢性呼吸不全 | 100 | 30 |
| COPD | 100 | 20 |
| 結核後遺症 | 50 | 10 |
| 肺線維症 | 100 | 30 |
| 気管支拡張症 | 50 | 15 |
| 肺非結核性抗酸菌症 | 50 | 15 |
| 肺癌 | 50 | 15 |

| 手技 | 件数（年間） | 目標件数（1年間） |
|-------------------|--------|-----------|
| 気管支鏡 | 400 | 50 |
| 人工呼吸管理 | 30 | 5 |
| 非侵襲的陽圧換気療法 | 60 | 15 |
| 胸腔ドレナージ （胸水穿刺） | | 10 |
| 挿管 | | 5 |

呼吸器内科3年コース

卒後3年目

卒後4年目

卒後5年目

呼吸器内科プログラム

【5年コース】

1. 診療科（専門領域）

呼吸器内科

2. 研修期間

5年

3. 募集人数

2名

4. 短期目標

肺炎の起炎菌を同定し、X線所見、臨床所見より正しく診断し、適切な抗菌薬を選択し治療できる。

気管支喘息の病態生理を理解し、治療、管理ができる。

各種アレルギー疾患の病態把握と治療ができる。

COPD、慢性呼吸不全、及び在宅酸素療法の適応を理解し、実際に導入することができる。

胸部レントゲン写真と胸部CTの読影、及び肺機能検査の分析ができ、鑑別診断をあげることができる。

ベッドサイドで必要な胸腔穿刺、胸腔ドレナージなどの手技を学ぶ。

気管支鏡の目的と適応を理解し、手技を習得する。

5. 取得手技

気管支鏡（気管支鏡下肺生検、気管支肺胞洗浄など）の習得

人工呼吸管理の実施

6. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 9名

診療科研修の指導にあたる医師 5名

| | | | |
|-------------------|-------|---------|-----|
| 主として研修指導にあたる医師の氏名 | 野上 裕子 | 診療科経験年数 | 30年 |
| | 古森 雅志 | 診療科経験年数 | 15年 |
| | 吉田 誠 | 診療科経験年数 | 20年 |

7. コンセプト

当院内科は、呼吸器、アレルギー、心療内科、リウマチ膠原病の専門病院である。したがって、これら呼吸器と関連する領域の疾患に対する基本研修科目を履修し、臨床医としての基本的な姿勢と診療能力を会得することができる。特に、肺炎、気管支喘息、慢性呼吸不全は、それぞれ年間約 250 名の入院があり、これらの疾患に関しては、多くの症例を診ることで豊富な臨床経験を積むことができる。

8. 共通領域研修について

週一回、臨床レクチャーの開催

3ヶ月、4ヶ月に1回、地域開業医を交えたレントゲンカンファレンスを開催

各種研究会への参加

診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査表

| 主要疾患 | 入院数（年間） | 目標症例数（5年間） |
|-----------|---------|------------|
| 気管支喘息 | 200 | 100 |
| 肺炎 | 300 | 100 |
| 慢性呼吸不全 | 100 | 60 |
| 慢性閉塞性肺疾患 | 100 | 45 |
| 結核後遺症 | 50 | 30 |
| 間質性肺炎 | 100 | 30 |
| 気管支拡張症 | 50 | 15 |
| 肺非結核性抗酸菌症 | 50 | 15 |
| 肺癌 | 50 | 15 |

| 手技 | 件数（年間） | 目標件数（1年間） |
|-------------------|--------|-----------|
| 気管支鏡 | 400 | 75 |
| 人工呼吸管理 | 30 | 10 |
| 非侵襲的陽圧換気療法 | 60 | 15 |
| 胸腔ドレナージ （胸水穿刺） | | 10 |
| 挿管 | | 5 |

呼吸器内科5年コース

卒後3年目

卒後4年目

卒後5年目

卒後6年目

卒後7年目

| |
|------------|
| 呼吸器内科プログラム |
|------------|